

# 患者さんの安全について



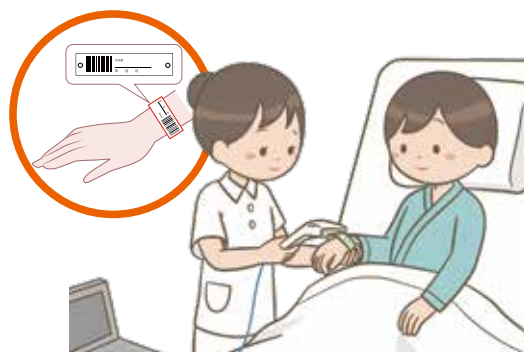
## 医療安全管理部からのお願い

当院では、患者さんにご家族の方にも、医療チームのメンバーとして事故防止対策へのご協力をお願いいたしております。

## 患者さん取り違え防止について

### ■バーコード認証とリストネームバンドについて

入院中は就寝中やお休みの場合でも、患者誤認防止のため「バーコード認証システム」で照合し、確認しております。入院中は必ず「リストネームバンド」装着をお願いします。



### ■お名前をフルネームで確認

「バーコード認証システム」と併用して、患者さんにお名前をフルネームで名乗っていただいております。間違いを避けるため生年月日も一緒に確認し照合しております。ご協力をお願いします。

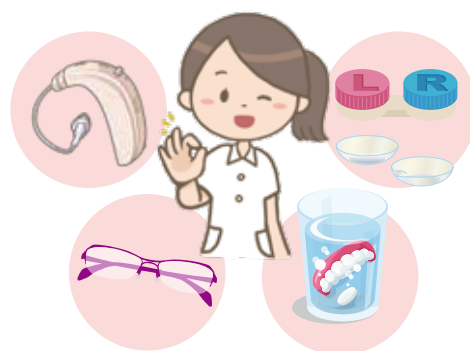


## 補助具の取扱について

### ■義歯・補聴器・メガネ・コンタクトなど

検査や手術の際、専用の保管容器をご準備いただき、ご自身での管理をお願いします。

万が一紛失された場合、病院での責任は負いかねます。不要であれば、ご家族へお持ち帰りいただくなど、破損や紛失等には十分ご注意ください。ご自身での管理が難しい場合は看護師にご相談ください。



## 医療安全について

医療安全についてのご相談等がございましたら、患者相談窓口へご連絡ください。医療安全に関する当院のガイドラインは、各科受付で閲覧することができます。



## ■ 患者さんの安全について

### 転倒転落について

転倒転落は、加齢に伴う筋力の低下や体力の低下などの老化現象と病状の変化や治療・薬などの影響により、誰にでも起こる危険性があります。

転倒やベッドなどからの転落によって、何でもないこともあります。時には頭の中で出血したり、手足や腰などを骨折したり、数日後もしくは数か月後に症状が見られる場合があります。入院生活において、私たちは安全な環境を提供できるよう心がけておりますが、患者さんご自身でも転倒転落の注意点を知り、予防を心がけてください。

## ■ 予防

### ● 問診

入院前や入院時に看護師は、患者さんの転倒・転落に関する問診を行います。これは転倒転落の危険性が高いのか低いのか、患者さんやご家族と一緒に考えるために行います。



### ● 履物

普段はいていて滑らない、踵が覆われている履物をご準備ください。病院の売店にも見本がありますので、参考にしてください。

スリッパやサンダルなどの脱げやすい履物や、クロックスの様な滑らかすぎる履物をご遠慮ください。



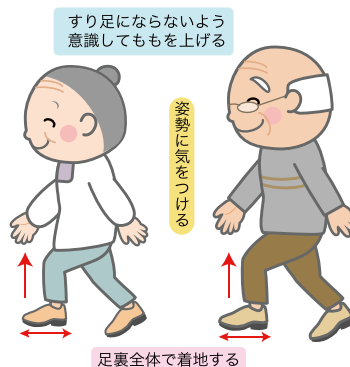
### ● 転倒発生しやすい場面（注意してください）

- ストッパーがされていないテーブルに手をついたり、車いすに移ろうとしたとき
- 点滴の台に躓いたり、点滴の管が絡まったりして慌てたとき
- 手すりにつかまらず、階段の昇降や歩行時したときなど



## ●転倒・転落予防のために

- ベッドの周囲は、移動式のテーブルや点滴台、カーテンなどいろいろな機材があります。収納できるものは、床置きせずベッド周囲は整理整頓しましょう。
- 点滴中に歩行するときは、カーテンなどに引っかからないように注意しましょう。
- ベッドの高さは、座って床に足がつく高さに調整しますので、依頼してください。
- 看護師を呼ぶためナースコールが手もとにあることを確認しておきましょう。
- 転落防止のためにベッド柵を立てることがあります。
- 小児の場合は、サークルベッドを使用することがあります。使用時の注意点は、入院病棟で詳しくご説明します。
- 化学療法中に転倒・転落が起こることがあります。  
アルコールが含まれるもの、副作用止めで眠気が出現するものがあります。その副作用によって貧血や倦怠感、手足のしびれ、体力低下などが歩行に影響することがあります。看護師を呼んで一緒に歩行しましょう。
- 転びにくい歩き方を心がけましょう。
  - ・ 視線を前方に向け、背筋を伸ばし軽く胸を張る。
  - ・ 歩幅を大きめにし、足先で地面を蹴って、踵から着地する。
  - ・ 腕は自然に振りリズムよく歩く
- 転倒・転落予防のための運動方法が必要な方は、看護師へ声をかけてください。



## ■ 患者さんの安全について

### ■ 発生時の対策

- 万が一、転倒・転落した場合は、看護師へお伝えください。

医師の診察を受けていただき、適宜検査や経過観察を行い、異常がないか確認いたします。

- 転倒・転落して時間がたってから症状が出る場合があります。

以下の事項に当てはまることがありましたら、看護師や医師にすぐにお知らせください。

- 頭痛がだんだん強くなった
- 吐き気や食べ物をはいたりする（小児の場合は、すぐに嘔吐することがありますが、それが何回にもおよぶとき）
- 手足が動きにくくなったり、しびれたり、手に持ったものを落としたりする
- ぼんやりしてきたり、直ぐに眠くなってしまい、起こされてもなかなか起きない
- 全身・手・足・顔などにけいれんが起こった
- 打撲部の痛みがひどくなった
- 以前と比べると体の動きが鈍くなった

※ あまり神経質になることはありませんが、心配なことや、わからないことがありましたら、ご相談ください。



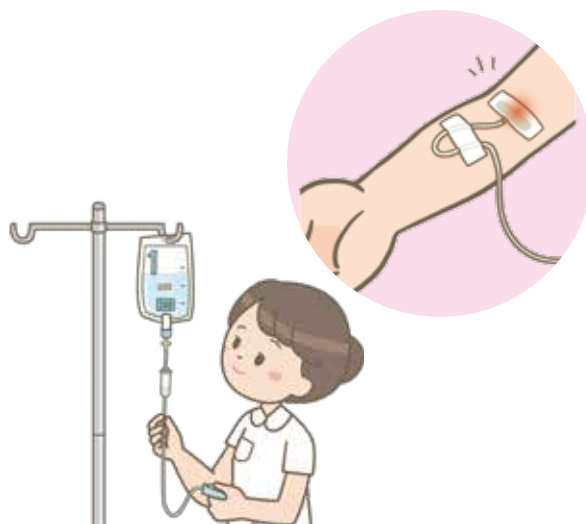
### 点滴治療中のお願い

- 点滴を受ける患者さんに、細心の注意を払っておりますが、様々な原因により血管外に薬液が漏れることがあります。

- 点滴中に痛む・発赤・腫れを生じることがあり、薬の種類によっては潰瘍、壊死を引き起こすこともあり、適切な処置が必要となる場合があります。

以下のご協力をお願いいたします。

- 病棟から離れるときは、看護師へお声かけください。（薬の種類によっては行動を制限させていただきます）
- 腕を激しく動かしたり、力を加えたりしないようご注意ください。
- 看護師は点滴の針が入っている周囲を観察するのでご協力ください。
- 看護師は点滴中、残量の確認などのために巡視を行っておりますが、点滴がなくなりそうになったりした場合は、お知らせください。





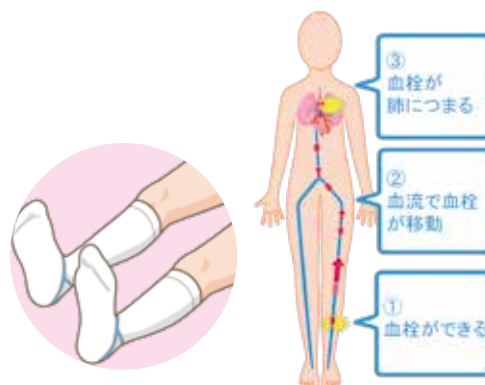
■以下の症状が現れたら、我慢せずにすぐお知らせください。

- 針が入っている周囲が腫れている
- 針が入っている周囲が赤くなってきた
- 針が入っている周囲が痛い
- 点滴の落ち方が悪い、または異常に早い

### 深部静脈血栓について

入院中には深部静脈血栓症を起こす可能性があります。

詳細は「深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症の予防に関する説明」をご確認ください。



### 医療機器について

院内では様々な医療機器が使用されています。故障、誤動作の原因となる可能性がありますので、機器には触れないようお願いします。

また、警報音などがありましたら、ナースコールにてお知らせください。



### 情報公開について

#### ■インフォームドコンセントとは

手術や検査を実施する前に病状については、主治医（または担当医）が責任を持って説明し、患者さんやご家族の方の十分なご理解を得たうえで診察が行われます。インフォームドコンセントは「十分な説明を受け、よく理解したうえで同意」することです。

わからない場合は、納得できるまで説明を聞いてください。



#### ■診療情報の開示に関して

当院は、患者さんやご家族（法廷代理人・実質的にお世話されている親族またはそれに準ずる方など、当院の定める開示請求の範囲の方）からのご希望があった場合、個人情報保護法に則りプライバシーを十分に考慮したうえで、診療情報の開示を行っております。手続きが必要となりますので、ご希望の方は総合案内までお申し出ください。係りの者が対応いたします。